

Tranzax  
電子記録債権担保に融資  
商工中金で第1号案件

フィンテックベンチ  
ヤのTranzax  
(東京都)が提供する  
「POファイナンス」  
で、第1号案件が誕生  
した。受注時点で発生  
させた電子記録債権を

担保に金融機関が融資  
する世界初のスキーム。  
融資金融機関は商  
工組合中央金庫。信用  
保証協会の流動資産担  
保融資保証制度(ABL  
保証)を活用する。  
11月21日に明らかにし  
た。

導入するのは、発注  
企業側が島根・鳥取両  
県で観光を通じた地域  
経済活性化に取り組み  
山陰インバウンド機構  
(鳥取県)。受注企業  
は訪日外国人向けにガ  
イドマッチング事業な  
どを展開するHuber  
(神奈川県)。

Huberは、山  
陰インバウンド機構が  
らの受注をTranzax  
で電子記録債権化  
し、商工中金がABL  
保証を活用して受注時  
点の融資実行を実現。  
企業は代金を受け取る  
前に必要な外注費や材  
料費などを調達でき  
る。

POファイナンス  
は、企業が発注先から  
受注を受けた段階で受  
発注を電子記録債権  
化。これを担保に金融  
機関が融資を実行する  
新たな電子記録債権担  
保融資。7月以降、西  
武信用金庫、城南信用  
金庫、大阪シティ信用  
金庫が取り扱いを始  
め、商工中金も10月25  
日に開始。大手地方銀  
行など十数金融機関が  
導入を予定している。